

令和5年度 えひめ環境大学

日時 令和5年7月1日～7月29日までの
毎週土曜日 13:30～16:00

場所 愛媛大学 城北キャンパス（松山市文京町3番）
共通講義棟B 1階 CRI-1教室

受講料 無料

応募締切 **6月26日（月）〈必着〉**
応募方法等詳細は裏面へ



第1回〔7月1日（土）〕

「人工光合成 ～植物に替わるCO₂の資源化技術～」
大阪大学 基礎工学研究科 附属太陽エネルギー化学研究センター
教授 中西 周次 氏

第2回〔7月8日（土）〕

「地震・雷・火事・外来種-日本を破滅に導くヒアリとアルゼンチンアリ」
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所
特任教授 橋本 佳明 氏

第3回〔7月15日（土）〕

「瀬戸内海の栄養塩循環」
愛媛大学沿岸環境科学研究センター
教授 森本 昭彦 氏

第4回〔7月22日（土）〕

「未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話」
同志社大学 経済学部
准教授 原田 禎夫 氏

第5回〔7月29日（土）〕

「脱炭素社会実現に向けた電気自動車（EV）の取組み」
日産自動車株式会社 日本事業広報渉外部
担当部長 高橋 雄一郎 氏

主催：愛媛県 共催：愛媛大学

募集 案内

県内在住の環境関連の実務者や環境保全活動者をはじめ、県民の方を対象に、より高度な環境知識を習得していただくため、「えひめ環境大学」を開催します。

開催概要

開催日程：令和5年7月1日、8日、15日、22日、29日（いずれも土曜日）
開催時間：13:30～16:00
開催場所：愛媛大学 城北キャンパス内（松山市文京町3番）
共通講義棟B 1階 CRI-1教室

**※会場に駐車場はありません。
また、新型コロナウイルス感染症対策への御協力をお願いします。**

募集内容

募集対象：受講を希望する県内在住者
募集定員：50人（先着順）
申込締切：令和5年6月26日（月）
＜必着＞

申込方法：

- 1 えひめ電子申請システムから申込み
(https://apply.e-tumo.jp/pref-ehime-u/offer/offerList_detail?tempSeq=1610)
- 2 はがき、FAX又はEメールで申込み
住所、氏名（ふりがな）、
年齢、電話番号、FAX番号、
メールアドレス、職業を記載。

※はがきの場合、表面に「令和5年度えひめ環境大学受講申込み」と朱書き

- 先着順に受講者を決定し、受講の可否についてご連絡します。
- 個人情報 は適切に管理し、本事業以外の目的では使用しません。



備考

- 4回以上出席された方には修了証書を交付します。
- えひめ環境大学は、学び舎えひめ悠々大学（愛媛県生涯学習センター実施）の対象講座となります。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により、実施方法の変更又は開催を中止する場合があります。

【申込み・お問い合わせ】

〒790-8570 松山市一番町四丁目4番地2

愛媛県環境・ゼロカーボン推進課 環境企画G

TEL 089-912-2346 FAX 089-912-2344

E-mail kankyuu@pref.ehime.lg.jp

講義内容・講師紹介

総合テーマ「環境問題を多角的に読み解く」

【第1回（7月1日）】人工光合成 ～植物に替わるCO2の資源化技術～

近代工業の発展により、人類の活動等によるCO2の発生と、森林などでの光合成によるCO2の吸収・資源化とが不均衡な状況となっています。この均衡を保つ、すなわちカーボンニュートラルを実現するためには、天然光合成に替わる新たなCO2資源化技術（人工光合成技術）が求められます。本講義では、種々の人工光合成技術について概観し、関連技術の世界動向について紹介します。

《講師》大阪大学 基礎工学研究科 附属太陽エネルギー化学研究センター 教授 中西 周次 氏
2000年 大阪大学・大学院基礎工学研究科・化学系・博士後期課程 中退2002年 理学博士（大阪大学）
【職歴】
2000年 大阪大学・大学院基礎工学研究科・助教
2008年 東京大学・先端科学技術研究センター・特任准教授
2011年 パナソニック株式会社
2013年 東京大学・工学系研究科・准教授
2015年 大阪大学・太陽エネルギー化学研究センター・教授
2021年 大阪大学・基礎工学研究科附属太陽エネルギー化学研究センター・教授

【第2回（7月8日）】地震・雷・火事・外来種-日本を破壊に導くヒアリとアルゼンチンアリ

ヒアリやアルゼンチンアリのような侵略的外来種は、気候変動による災害に並ぶ世界の危機になっている。例えば、1980年から2019年までの外来種による被害額は世界で133兆円にも及び、これは暴風雨（210兆円）や地震（125兆円）によるものと変わらない。ヒアリの国内侵入は、2017年の兵庫県神戸港での初確認以降、18都道府県で92事例にもなり、港湾地区での営業も発見されている。このままでは、その日本定着も時間の問題である。アルゼンチンアリは、すでに12都道府県に定着し、各地で生物多様性の損失や、機械の故障や住民の不眠症などの大きな経済損失も生み出している。私たちが、自然と共生して持続的な経済発展を遂げていくためには、侵略的外来種対策への行動が求められている。本講演では、私がかれまで取り組んできたヒアリやアルゼンチンアリ対策を例に、生物多様性を守り、SDGsを達成するために必要なことを考えたい。

《講師》兵庫県立大学自然環境科学研究所 特任教授 橋本 佳明 氏
神戸大学大学院自然科学研究科修士 学位博士。
兵庫県立大学自然環境科学研究所准教授 兼務兵庫県人と自然の博物館主任研究員（退職、2022年より現職）。専門は多様性生物学とアリ類学。ヒアリやアルゼンチンアリなどの特定外来生物対策にも従事。環境省ヒアリ専門家会合委員、神戸市有害外来生物被害防止に関する有識者会議委員などを歴任。著書に「外来アリのはなし」編者（朝倉書店 2020年）。マイクロカプセル化わさび成分によるヒアリ忌避効果の論文で日本応用動物昆虫学会から論文賞を受賞。

【第3回（7月15日）】瀬戸内海の栄養塩循環

瀬戸内海は、高度経済成長期の陸からの多量の栄養塩や有機物の負荷によりかつては「瀬死の海」と呼ばれるまで海洋環境は悪化しましたが、リンや窒素の総量規制が行われ現在はきれいな海となりました。一方で、瀬戸内海の漁獲量は急激に減少しており、この漁獲量の減少が瀬戸内海がきれいになりすぎたために起こっているとの意見もあり、陸からの栄養塩負荷量を再び増やす取り組みも行われています。魚が獲れ、きれいな瀬戸内海を実現するためには、まず瀬戸内海の生態系の基礎となる植物プランクトンの光合成に必要な窒素やリンなどの栄養塩の動態を定量的に理解することが必要となります。瀬戸内海は陸地に囲まれた半閉鎖的な海のため、そこに存在する栄養塩は主に陸から供給されていると考えがちですが、実は太平洋から供給される栄養塩のほうが多いです。本講義では瀬戸内海の栄養塩の動態を最新の研究結果から紹介します。

《講師》愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 教授 森本 昭彦 氏
愛媛大学理工学研究科博士前期課程修了
博士（理学）九州大学
水産大学校海洋生産管理学科 助手
名古屋大学地球水循環研究センター 助教授・准教授
2015年より現職
専門分野は沿岸海洋学、海洋物理学。沿岸域の物質循環を海洋物理学的な視点から研究している。

講義内容・講師紹介

【第4回（7月22日）】未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話

世界的な問題となっている海のプラスチック汚染ですが、どんなメカニズムで起きているのか？私たちの健康にどんな影響が起きているのか？まだまだわからないことがたくさんあります。海外を中心に脱プラスチックが大きな流れとなる中で、日本はこれからどんな取り組みを進めていけばいいのでしょうか？また、私たち市民ができることは何なのでしょう？最新の話題とともに、みなさんと一緒に考えたいと思います。

〈講師〉同志社大学経済学部 准教授 原田 禎夫 氏
同志社大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（経済学）。
大阪商業大学公共学部准教授を経て現職。
全国の自治体のプラスチックごみ削減計画に審議会委員として携わっている。
また、特定非営利活動法人プロジェクト保津川代表理事として、京都・保津川の環境保全や水運文化の伝承、内水面漁業の活性化に取り組んでいる。
著書に『コモズのガバナンス（共訳、晃洋書房）』、『京の筏 -コモズとしての保津川（共著、ナカニシヤ出版）』など。

【第5回（7月29日）】脱炭素社会実現に向けた電気自動車（EV）の取組み

持続可能な社会の実現に向け、脱炭素化は誰もが取り組まねばならない大きな社会課題です。電気自動車（EV）は、走行中のCO2排出がゼロで、電力を外部に供給することもできるという特性があり、単なる移動手段を超えた、社会インフラの一部になることができるクルマです。
日産は電気自動車のパイオニアでありリーディングカンパニーの使命として、電気自動車活用による社会変革、社会課題を解決するために、2018年から「ブルー・スイッチ」と命名し、活動をスタートしました。全国の自治体や企業・団体など、さまざまなパートナーの皆さまと共に取り組んだ件数は、活動開始からこれまでに200件を超えました。
今回の講座ではEVの特徴や上記活動の具体的なEV活用事例についてご紹介します。

〈講師〉日産自動車株式会社 日本事業広報渉外部 担当部長 高橋 雄一郎 氏
1999年日産自動車（株）入社。
商品企画、マーケティング等を担当した後、2019年より日本事業広報渉外部にて、電気自動車を活用した課題解決活動「ブルー・スイッチ」の責任者を務める。

えひめ環境大学



主催
えひめ環境大学
協賛
エフエフエフ - ストッピー